

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育原理		こども未来教育学科／2年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
保育の対象となる乳幼児の特性や保育の思想・制度の発達などの概念を通じて、保育に関する基礎的な知識を培う。				
授業終了時の到達目標				
保育が直面している現実的・今日的で切実な課題に当ることにより、各人が課題意識を持って問題を掘り下げ、保育の本質を探究し、保育に対する自分なりの見識を持つ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として4年の実務経験 現場経験を踏まえ、現代社会が抱えている保育の課題について一緒に考察していきたい。		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	はじめに 第1章 乳幼児の特質と保育の意義		保育とは 保育観、乳幼児期の発達の特質	
2	第2章 保育思想と児童観の変換		幼児の思考、言語の発達 古代、中世	
3	第2章 保育思想と児童観の変換		近世、近代－エミール	
4	第2章 保育思想と児童観の変換		近世－ペスタロッチ、子どもの管理 ロバート・オーエン	
5	第3章 近代保育施設・制度の創設と発展		フレーベル	
6	第3章 近代保育施設・制度の創設と発展		モンテッソーリ	
7	第4章 各国の保育		イギリス、フランス、アメリカ	
8	第4章 各国の保育		ドイツ、スウェーデン	
9	第5章 わが国における幼稚園・保育所の成立と変換		幼稚園	
10	第5章 わが国における幼稚園・保育所の成立と変換		保育所	
11	第5章 わが国における幼稚園・保育所の成立と変換		認定こども園	
12	第7章 保育の内容・方法・計画・評価		保育方法の基本原理、保育の計画 保育の評価	
13	第8章 さまざまな保育と課題		幼児指導要録などいろいろな書類 今後の動向と課題	
14	第8章 さまざまな保育と課題		今後の動向と課題	
15	まとめ・試験		期末試験	

回	テ　　マ	内　　　　容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材			
	保育原理（近畿大学九州短期大学）	期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	【準備学習】 テキストを熟読する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子ども家庭福祉		こども未来教育学科／2年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	原 隆之
授 業 の 概 要				
・子どもと家庭を取り巻く状況を理解し、子育て家庭を支援するさまざまな施策や施設、機関等について学習する。 ・子ども子育て支援新制度に基づく保育サービスや子育て支援サービスについて学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・児童福祉六法に基づく支援施策および子ども子育て支援新制度について説明できる。 ・児童虐待の現状と背景を踏まえて、虐待防止について考えることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		児童養護施設 こぶしヶ丘学園 家庭支援専門相談員（FSW）として現職		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	少子高齢化と家族機能の変化	・少子高齢化の現状と家庭福祉 ・家族形態、家族機能、地域社会の変化		
2	子ども家庭福祉の歴史	・欧米の子ども家庭福祉の歴史 ・日本の子ども家庭福祉の歴史		
3	児童福祉六法	・児童福祉法 ・その他の法律		
4	子ども家庭福祉の機関	・児童相談所 ・その他の機関		
5	子ども家庭福祉に関わる専門職	・保育士、児童自立支援員、ファミリーソーシャルワーカー等		
6	児童福祉施設	・児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設、母子生活支援施設 ・障害児入所施設等		
7	虐待の防止と支援	・虐待の現状と課題 ・虐待の防止と支援		
8	養護を必要とする子どもへの施策	・施設養護 ・家庭養護		
9	ひとり親世帯への施策	・子育て支援、経済的支援、就労支援等		
10	障害のある子どもへの施策	・障害者総合支援法に基づく支援 ・早期発見・療育、経済的支援等		
11	母子保健施策・健全育成	・母子保健法に基づく支援 ・児童厚生施設、放課後児童クラブ等		
12	保育サービス	・待機児童問題 ・保育所における保育サービス		
13	子ども・子育て支援新制度	・子ども・子育て支援新制度による保育サービス ・子育て支援サービス		
14	少子化対策と子育て支援	・少子化対策 ・ワーク・ライフ・バランス		
15	まとめ、期末試験	・まとめ ・筆記試験		

回	テ　　マ	内　　　　容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材			
	大津泰子「児童家庭福祉」ミネルヴァ書房	期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	レポートは2枚作成

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子ども家庭支援論		こども未来教育学科／2年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	渡邊 英実
授 業 の 概 要				
保育所や保育士が支援する対象である家族及び家庭についての定義について学び、なぜ社会的支援が求められるのかについて考える。				
授業終了時の到達目標				
地域における子どもとその家族を支援するという役割を担う視点を理解する				
実務経験有無		実務経験内容		
有	福祉従事者としての実務経験17年 精神保健福祉士および社会福祉士の国家資格を持ち、学校現場における教育相談（スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカー）に従事している。課題を抱える子どもやその保護者および教員へのかかわりや他機関との連携・協働の仕方等実際の支援の場面を教材とし、家庭支援について指導する。			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	家庭支援の意義と役割	家庭支援が求められる背景と家庭支援の意義		
2	家族の形態と家庭を取り巻く地域社会	家族形態の分類と家族機能について 家庭を取り巻く地域社会について		
3	こどもの成長と家庭の役割について	親になるプロセスを理解し、こどもの発達段階に沿った家庭の役割を知る		
4	家庭支援における保育者の役割等について	家庭支援における保育者の役割と姿勢		
5	保育者による家庭支援方法	保育相談支援について		
6	特別なニーズを有する家庭について	DV・児童虐待・障害・ひとり親・外国籍家庭への支援について学ぶ		
7	家庭支援の展開過程と記録	ソーシャルワーク技術の展開過程を保育者が行う支援に活かす方法を学ぶ。また、記録の重要性を学ぶ。		
8	在宅子育て家庭への支援について	在宅子育て支援を担う事業所と具体的支援について		
9	在宅子育て家庭への支援について	在宅子育て支援を担う事業所と具体的支援について		
10	社会的養護を要する家庭についてし らべ、それぞれの施設での支援につ いて考える	社会的養護を要する家庭の特性と保育者との関係性及び支援姿勢について学ぶ		
11	特別なニーズへの支援	特別なニーズを持つ子育て家庭への支援方法について		
12	虐待家庭への支援	要保護児童とその家族への家庭支援について		
13	子育て支援の展望	様々な場所における家庭支援の可能性について		
14	レポート	家族形態、機能、取り巻く地域社会はどのように変化しているか		

回	テ　　マ	内　　　容		
15	レポート	虐待家族への支援について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
橋本真紀・山縣文治編『よくわかる家庭支援論』ミネルヴァ書房2016第2版		期末試験	100.0%	グループワークを実施知ることもあるので、次コマまでに教科書にてテーマとなっている個所を読んでおくとい。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育の心理学		こども未来教育学科／2年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	豊田 尚子
授 業 の 概 要				
発達心理学は、人が生涯を通じて、身体と運動機能、知的機能、社会性、人間性などさまざまな面において、どのような発達を遂げていくかを科学的に研究する学問であり、私たちにとって、大変身近な学問でもある。言語、知的、感情面において、また社会性や道徳性といった面において、人はどのように発達していくかを代表的な理論を紹介しながら、学んでいく。				
授業終了時の到達目標				
①発達心理学がどのような学問であるか。また、これまでの発達理論の変遷について理解する ②言語、知的、感情、社会性、道徳性の発達について、代表的な理論も含めて理解する ③生涯発達の観点から、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の生活や発達について理解する				
実務経験有無		実務経験内容		
有	医療機関で10年間、スクールカウンセラーとして13年間の実務経験（臨床心理士） これまでの現場での経験を踏まえ、人の生涯に渡る変化を心理学的にどのように捉え、理解していくのかを伝えていく			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	イントロダクション 発達心理学とは		導入（授業計画など） 発達の意味と発達心理学について	
2	発達に関する理論		初期の発達理論と現代の発達理	
3	身体と運動機能の発達		身体の発育 運動能力の発達	
4	言語の発達		言語獲得に関する仮説と言語発達の道筋	
5	知的発達		ピアジェの知的発達論	
6	知的発達 環境と発達		発達の階層的構造化 記号と表象 遺伝と環境 初期経験と発達の関係	
7	環境と発達		初期経験の重要性 知的発達と環境の関係	
8	パーソナリティの発達		パーソナリティの形成	
9	感情と動機づけの発達		動機づけ 感情の種類 情動の種類と発達	
10	社会性と道徳性の発達		社会化への道と社会的交流 遊び 道徳性についての考え方とその発達	
11	青年期の発達		青年期の発達課題 身体的発達と心理的特徴 青年期の人間関係	
12	成人期の発達		成人期の発達課題 仕事と生活 中高年層の悩み	
13	老年期の発達		老年期の発達課題 老いの特徴 高齢者の病	
14	発達の障害		身体や運動機能に関わる障害 知的機能に関わる障害 社会性に関わる障害	

回	テ　　マ	内　　　容		
15	補足と質疑応答 科目終了試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育の心理学 近畿大学九州短期大学 補足用レジュメ		期末試験 授業態度	80.0% 20.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子ども家庭支援の心理学		こども未来教育学科／2年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	渡邊 英実
授 業 の 概 要				
家庭支援の意義と原則について理解する。 家庭支援の基本を理解する。 家庭支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。				
授業終了時の到達目標				
保育の場における保育相談支援についての知識・技術の習得				
実務経験有無		実務経験内容		
有	福祉従事者としての実務経験17年 精神保健福祉士および社会福祉士の国家資格を持ち、学校現場における教育相談（スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカー）に従事している。課題を抱える子どもやその保護者および教員へのかかわりや他機関との連携・協働の仕方等実際の支援の場面を教材とし、家庭支援について指導する。			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	授業の進め方について理解する	子ども家庭支援の心理学といった教科が求められる背景について		
2	現代の子育てを取り巻く社会的状況について知る	現代の子育てを取り巻く社会的状況と課題について学ぶ		
3	乳児期の発達について	新生児期から乳児期（2歳ごろ）までの初期発達の特徴と、必要なかかわりについて		
4	児童期の発達について	学童期（小学生）の発達の特徴およびその課題と乳幼児期から学童期への移行の過程で起こる諸問題について考察する		
5	青年期の発達について	年期の身体的発達、認知的発達、対人関係の変化、青年期の課題について学ぶ		
6	成人期および中年期の発達について	成人期および中年期の結婚・出産・子育て・介護など様々なライフイベントと生涯発達のかだいについて学ぶ		
7	高齢期の発達について	齢期における発達と高齢者を取り巻く社会状況、高齢者福祉の内容について		
8	家族の意義と機能について	家族および家庭の定義と現代における社会的機能について学ぶ		
9	子育て支援を行う社会資源について	子育て支援を行う社会資源の概要と支援内容について学ぶ		
10	子育て支援における関係機関との連携について	各関係機関とどのように連携していくかを具体例をもとに学ぶ		
11	子育て支援サービスについて	子育て支援サービスについての概要および活用方法について学ぶ		
12	ライフコースと仕事・子育てについて	ライフコースの概念とその歴史的変遷について学ぶ		
13	児童虐待について	児童虐待の定義及びその支援方法について学ぶ		
14	特別な配慮を要する家庭について	養育者のメンタルヘルスや子どもや家族の障害などについて学ぶ		

回	テ ー マ	内 容		
15	子どもの心の健康に関する問題について	こころの健康を崩しているサインについて具体的に学び、他機関との連携方法を学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子どもの保健		こども未来教育学科／2年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	永井 智子
授 業 の 概 要				
本科目は、子どもが病気にならないように保健衛生を整え、看護する医療的なことだけではなく、子どもの生命の保持と情緒の安定を図り、ようごを意識した子ども一人一人の健康状態や発育状況に応じた健康支援に努めなければいけないことを理解する。また、社会生活を送るための生活習慣や生活リズムを整えていく大切な時期の保育対象を理解するために、多様な子どもたちを健康に豊かに育て将来に見据えた知識と技能の習得をねらいとする。				
授業終了時の到達目標				
①子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義が説明できる。 ②子どもの身体的な発育・発達と保健について説明できる。 ③子どもの心身の健康状態とその把握の方法について説明できる。 ④子どもの疾病とその予防法及び多職種間の連携・協働の下での適切な対応について説明できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		看護師実務： 12年 看護大学教員・看護専門学校教員実務： 16年（小児科臨床実習指導有） 大学・短期大学・専門学校非常勤講師（生活学・保育学：6年 医療事務・クラーク学科）： 4.5年 以上の実務経験を生かし、2018年の保育士養成課程の改定で「子どもの保健」の知見が「乳児保育」「保育の心理学」にも広げられ、保育のスペシャリストを目指す学生達が、子どもの健康をより深く、将来を見据えた知識と技能を身に付けられるよう指導する		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	授業計画・内容：ガイダンス 子どもの健康と保健		①ガイダンス ②保健活動の意義と目的・子どもの保健とは ③子どもの健康と健康問題	
2	子どもの発育・発達と保健Ⅰ		①子どもの身体発育と運動機能の発達 ・子どもの発育と発達・乳幼児の身体計測・発育評価・身体発育に影響を与える因子	
3	子どもの発育・発達と保健Ⅱ		①生理機能の発達と生活習慣 ・呼吸器 循環器 消化器 排泄機能 生殖器 恒常性（体温・血液・免疫・睡眠・内分泌）	
4	子どもの発育・発達と保健Ⅲ		①精神・運動機能の発達 ・脳と神経 運動機能 感覚器 精神機能 ②発達評価	
5	地域における保健活動		①地域における保健活動 ・生涯にわたる健康管理 ②子どもの虐待防止	
6	子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握		①子どもの健康状態の把握 ②子どもの体調不良時によくみられる症状 ③発育・発達の把握と健康診断 ④保護者との情報共有	
7	子どもの病気Ⅰ		①子どもの免疫の発達 ②感染症とは ③感染症の予防および適切な対応・予防接種	
8	子どもの病気Ⅱ		①子どもの疾病予防と適切な対応：疾病の経過・治療方法・疾病予防・保育現場における薬の取り扱い	

回	テ ー マ	内 容		
9	子どもの病気Ⅲ	①新生児の病気、新生児期にかかわる先天性の病気の特徴と対応 ・受精から出生・新生児とは・先天異常		
10	子どもの病気Ⅳ(個別的な配慮を要する子どもへの対応)	①アレルギー疾患の特徴と適切な対応 ②慢性疾患の特徴と適切な対応		
11	子どもの病気Ⅳ(個別的な配慮を要する子どもへの対応)	①障害のある子どもの特徴		
12	子どもの病気Ⅴ	①小児期の主な疾病の特徴		
13	子どもの病気Ⅵ	①小児期の主な疾病の特徴		
14	保育者との情報共有と家族の支援	①集団生活前健診 ②保護者との健康情報の共有 ③子どもの家族支援 ④子育て支援		
15	まとめ 科目修了試験	①子どもの健康まとめ ②科目修了試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「よくわかる子どもの保健」 第3版 ミネルヴァ書房 竹内義博・大矢紀昭編 「子どもの保健テキスト」 診断と治療社 小林美由紀編著「国民衛生の動向」厚生労働統計協会 「シードブック 子どもの保健」 建帛社 及川郁子・草川功編著 「小児看護」 金芳堂 山崎智子監修 「生涯人間発達論」 医学書院 服部祥子		課題 期末試験	40% 60%	主体的に意欲をもって授業に参加する 課題の取り組みは課題提出状況及び内容「準備学習」 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子どもの食と栄養		こども未来教育学科／2年	2023／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	我如古 菜月
授 業 の 概 要				
人の健康と食生活習慣は、生涯の身体的・精神的活動の基盤となる。よって乳幼児期をどのように過ごすかが、生涯を通して、健やかに過ごすことができるかどうかを左右するといっても過言ではない。またその大切な時期を支援する保育士の作り出す食環境は、家庭とならんで、子どもに大きな影響を与えるため、その責任は大きい。栄養の基本的な知識と各年齢ごとの身体的・精神的特徴、食事管理の重要性、身体的評価、現代の子ども達を取り巻く食生活環境の実態や社会的問題を広く理解し、保育と食育を行う実践力を養うことを目的とします。				
授業終了時の到達目標				
1. 子どもの発育・発達と食生活との関連や意義について理解を深める。 2. 特別な配慮を要する子どもの食生活の現状と対応について学ぶ。 3. 子どもやその家庭に対して「食生活や栄養」に関する情報提供ができるスキルを身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		管理栄養士養成施設での助手（2年）および助教（10年） 介護福祉士養成施設での非常勤講師1年半		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	・授業のイントロダクション ・子どもの健康と食生活の意義		・授業概要・留意点等・自己紹介など ・現代の子どもたちの食生活の現状や問題点を知り、子どもの食と栄養について学ぶ目的や必要性を学ぶ	
2	・食事バランスガイド ・栄養に関する基礎知識（栄養とは）		・『食事バランスガイド』を用いて自身の栄養や食生活について評価する方法を学ぶ ・栄養とは何か。基本概念と栄養素の種類や機能について知識を深める	
3	・栄養に関する基礎知識（炭水化物） ・栄養に関する基礎知識（脂質）		・三大栄養の一つである“炭水化物”と“脂質”の種類や特徴、消化吸収と代謝について学ぶ	
4	・栄養に関する基礎知識（たんぱく質） ・栄養に関する基礎知識（ビタミン・ミネラル）		・三大栄養の一つである“たんぱく質”の種類や特徴、消化吸収と代謝および、“ビタミンとミネラル”の種類や生理作用について学ぶ	
5	・幼児期の心身の発達と食生活		・胎児から乳児期にかけての、心身の発育と食べる機能、栄養や食生活の意義や内容について学ぶ	
6	・乳汁栄養 ・離乳の意義とその実践		・乳汁栄養と離乳食について、その特徴と意義、方法について学び、実践に必要な知識を学ぶ	
7	・幼児期の心身の発達と食生活		・幼児期の心身の発育と食べる機能、栄養や食生活の意義や内容について学ぶ	
8	・児童福祉施設における食生活と栄養（スクーリング①）		・食中毒の予防と衛生管理・離乳食について復習 ・調理法解説	
9	・食物アレルギーのある子どもへの食対応 ・障害のある子どもへの食対応（スクーリング①）		・幼児食と離乳食の調理実習及び試食	
10	・特別な配慮を要する子どもの食と栄養（スクーリング①）		・幼児食と離乳食の調理実習及び試食	
11	まとめ（スクーリング①）		全講義内容の復習とポイントまとめ	

回	テ ー マ	内 容		
12	定期試験（スクーリング②）	定期試験		
13	調理実習について解説（スクーリング②）	テーマは『食育について』グループごとに発表する。計画に沿って準備とリハーサルを重ねる時間とする		
14	調理実習（スクーリング②）	テーマは『食育について』グループごとに発表する。計画に沿って準備とリハーサルを重ねる時間とする		
15	調理実習（スクーリング②）	研究発表と相互評価		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
新 保育ライブラリ 子どもを知る 子どもの食と栄養/北大路書房		課題・レポート 授業態度 期末試験	30.0% 10.0% 60.0%	毎回配布の講義プリントを活用して学習をすると良い。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児と造形表現		こども未来教育学科／2年	2023／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	中居 雅子
授 業 の 概 要				
幼児の造形教育に携わる教育者・保育者にとって必要とされる造形に関する表現技術を実習を通じて習得する。				
授業終了時の到達目標				
幼児の造形活動に対して適切で充実した援助と造形教育をおこなえる能力を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	幼稚園教諭・保育士 現場経験を踏まえ、幼稚園教育要領や保育所保育指針における「造形表現」領域がどのように現場で活用されていくのかを伝えていきたい。			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	はじめに 製作活動		授業内容の説明 製作作品の決定、製作に取り掛かる	
2～ 4	製作活動		廃材 3 種類以上使用して作品を作る（1 個目）	
5～ 6	製作活動		廃材 3 種類以上使用して作品を作る（2 個目）	
7～ 8	製作活動 写真撮影		完成作品を撮影する	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート 授業態度	80.0% 20.0%	【準備学習】 製作物を考え、材料の準備をする。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
幼児と健康		こども未来教育学科／2年	2023／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	近畿大学九州短期大学講師
授 業 の 概 要				
実際の幼児体育や体操教室で行っているウォーミングアップ、粗大運動、固定機材を使つての運動などを実践し体育の意義や子どもたちの成長段階である能力の引き出し方を理解する。 そのうえで子どもたちへの声のかけ方や体操における補助の仕方なども実践の中で理解し習得を図る。 球技や競争などのルールの決め方、子どもたち向けの運動を実践していく。				
授業終了時の到達目標				
・運動を実践していく中で人間の基本動作の習得を理解する。 ・子どもたちの発達・成長に関わる重要な身体活動を理解し実践できるようにする。 ・子どもへの声のかけ方、固定機材の補助の仕方を実践できる。 ・実際の現場で必要とされる知識、技術、能力を高められる。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～4	幼児体育の実践 1	ウォーミングアップ・ストレッチ・粗大運動・鉄棒・縄跳び		
5～8	幼児体育の実践 2	ウォーミングアップ・ストレッチ・粗大運動・マット運動・跳び箱		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	授業までの体調管理に努めること

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
障害児保育		こども未来教育学科／2年	2023／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	中野 年朗
授 業 の 概 要				
個人ワーク、グループワーク、ロールプレイ等など、様々なワークや講義を通して障害がある子どもの保育を実践するにあたり、基本的な知識から実践的な技術や方法までを効果的に学べるよう体験型の学習を進めていきます。また、感想文の記入や振り返りシートでその日に学んだことを自分なりにまとめていくことで、子ども理解を深めていきます。				
授業終了時の到達目標				
この授業では障害がある子どもに対しての理解を深めることを目的とします。また、保育現場でできる配慮や環境設定の工夫などを演習を通して体験的に理解します。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		児童発達支援センターでの児童指導員、園長としての実務経験を生かして児童発達支援現場での「今の児童発達支援」を学んで頂きます。		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション 「障害」ってどんな感じ？		自己紹介 笠岡学園について 授業の進め方、評価の方法 障害の意味、とらえ方、ICF、ICFを活用した支援	
2	障害児保育とは何か①		乳幼児期における障害のわかりにくさ、障害児保育で大切にしたいこと 基本的生活習慣、コミュニケーション発達	
3	障害児保育とは何か②		幼児期の障害のある子どもの抱える困り感、やる気を高める、発達障害がある子どもの支援の基本	
4	障害児保育の仕組み③		障害児保育のあゆみ、ノーマライゼーションとインクルージョン、障害児保育の制度、幼稚園と保育所における障害幼児の保育	
5	障害児保育の仕組み④ 知的障害児の特徴と保育での支援①		乳幼児健康診査と早期発見、就学時健康診断、就学に向けて、就学基準 知的障害児のとらえ方、知的障害児のある子どもの支援を考えてみよう	
6	知的障害児の特徴と保育での支援② 自閉症スペクトラム障害の特徴支援①		ダウン症児の特徴と支援、個別配慮や小集団を利用した発達支援 自閉症スペクトラム障害のとらえ方、自閉症児の支援のポイント	
7	自閉症スペクトラム障害の特徴支援② オレムシ試験		個別配慮や小集団を利用した保育 これまでの内容を統括し、試験を行う	
8	注意欠如多動性障害のとらえ方		注意欠陥多動性障害とは、特徴、支援のポイント 保育現場における支援	
9	学習障害児のとらえ方 視覚障害児の特徴、聴覚障害児の特徴		学習障害児の認知の特徴、保育現場における支援 視覚障害児の保育、聴覚障害児の保育	
10	肢体不自由児の特徴		肢体不自由児の保育 肯定的に伝えてみよう！発達保障のインクルーシブ保育	
11	効果的な指示の出し方 環境を整える		子どもが従いやすい指示の出し方 問題行動のとらえ方	
12	問題行動のとらえ方 問題行動への対応を考える		問題行動の意味を考えてみよう、問題行動への対応を考える クラスメートへの対応	

回	テ ー マ	内 容		
13	インクルーシブ保育の支援体制づくり 保育所・幼稚園と小学校との連携	支援に生かす実態把握、個別の指導計画とは 保育所・幼稚園と小学校の接続期の子どもにとっての「段差」		
14	障害の子に向き合うということ 児童虐待と発達障害	障害の子どもを育てている保護者の気持ち 好ましくない行動を減らす（ほめるために待つ）		
15	視覚教材の紹介 まとめと試験	授業アンケート記入、感想文記入 これまでの内容を統括し、試験を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
尾崎康子他：よくわかる障害児保育，ミネルヴァ書房 毎回レジメを配布し、そのレジメに沿って授業を進めます。		期末試験 授業態度 提出物	70.0% 20.0% 10.0%	【準備学習】 次回の授業内容の教科書を読んでもらうこと。 事前にページは伝えます。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会的養護Ⅱ		こども未来教育学科／2年	2023／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	原 隆之
授 業 の 概 要				
近年、児童相談所における虐待通告件数は増加の一途をたどっています。これは、家庭における養育機能の弱体化が理由の一つと言われています。そのため、社会的養護としての福祉施設の質が問われているのが現状です。この講義では、児童養護施設における養育の基本理念と実践方法について学び援助者としての支援の視点を考察・検討していきます。				
授業終了時の到達目標				
1. 児童問題の現状や背景を理解する。 2. 児童福祉施設として、基本視点、体系について学ぶ。 3. 施設職員の在り方についての役割、援助方法を学ぶ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		児童養護施設 こぶしヶ丘学園 家庭支援専門相談員（FSW）として現職		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	○オリエンテーション ○児童養護施設の概要 ○施設養護の現状（1） ○施設養護の現状（2）		○社会的養護の基盤づくり。 ・社会的養護の地域の拠点としての施設の現状。高機能化及び多機能化・機能転換の必要性 ○継続した支援及び連携アプローチ ・入所や委託を終えた後も長く関わりを持ち続ける。また、アフターケアまでの継続した一貫性のある養育。	
5～8	○児童養護施設における援助（1） ○児童養護施設における援助（2） ○児童養護施設における課題と対応 ○総括		○児童養護施設における援助の在り方をケースを通じて学ぶ。 ・施設入所児の背景を理解することにより、その児童にとっての最善な養育とは何かを考える。（発達面での課題等） ○施設及び関係機関との連携及び協働。 ・対応困難児に対する対応及び協働	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		授業態度 取組姿勢	50.0% 50.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
子育て支援		こども未来教育学科／2年	2023／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	渡邊 英実
授 業 の 概 要				
子育て支援の意義と原則について理解する。 子育て支援の基本を理解する。 子育て支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。				
授業終了時の到達目標				
保育の場における子育て支援についての知識・技術の習得				
実務経験有無		実務経験内容		
有		【実務経験】福祉従事者としての実務経験17年 精神保健福祉士および社会福祉士の国家資格を持ち、学校現場における教育相談（スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカー）に従事している。課題を抱えるこどもやその保護者および教員への実際の支援の場면을教材とし、支援理論をどのように活用していくのかを指導する。		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	はじめに 子育て支援の意義	保護者に対する保育相談支援の意義 保育の特性と保育士の専門性を活かした支援		
2	人間関係マップ等の書き方について	ジェノグラム・ファミリーマップ・エコマップを学ぶ		
3	保育現場におけるカウンセリング技法活用の有用性およびカウンセリングにおける傾聴姿勢	こどもや保護者、同僚の気持ちを理解する姿勢を学ぶ		
4	人間関係構築方法及びより良いコミュニケーションにあたっての心構え	信頼関係を基本とした受容的かわり・自己決定・秘密保持の尊重等について、具体的な方法論を学ぶ		
5	子育て支援に役立つ心理療法	保育に関する保護者に対する指導 保護者支援の内容、方法と技術を知る		
6	支援が必要な保護者への対応について	事例をもとにロールプレイできるようにグループワークを行う。		
7	ロールプレイ	いじめ・感情的になっている保護者への対応についてのロールプレイ		
8	テストおよびレポート	子育て支援の授業で学んだ技術等についてのレポート作成の授業で学んだ内容をテストする		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		確認テスト	50.0%	
		提出物	25.0%	
		授業態度	25.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
音楽表現技術		こども未来教育学科／2年	2023／通年	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位（60時間）	必須	日野 みどり
授 業 の 概 要				
幼稚園や保育所での子ども達の生活は、音楽を中心として活動が展開されています。				
音楽Ⅰ（１年次）の授業に引き続き幼児教育にたずさわる保育者の、音楽技術（ピアノ）の習得や資質の向上を目指し学習します。				
授業終了時の到達目標				
音が苦しい「音が苦」では子どもが喜びません。ピアノを弾きながら楽しく歌えるよう技術の向上を目指します。				
保育士資格・幼稚園教諭免許の取得				
実務経験有無		実務経験内容		
有		音楽教室でピアノ講師としての実務経験		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～2	近大指定レベル③の説明 弾き歌い 生活・行事・手遊びの曲	生活・行事・手遊びの曲 近大テキストレベル③36番～44番		
3～4	弾き歌い	動物 レベル③45番～54番 乗り物・身体表現 レベル③55番～62番		
5～6	弾き歌い	童謡・唱歌・卒園 近大テキストレベル③63番～70番		
7	近大ピアノ試験対策	近大指定課題曲の練習 近大レベル③ピアノ試験対策 リハーサル		
8～11	実技試験	近大課題曲練習 近大ピアノ試験対策		
12～15	実技試験	近大ピアノ実技試験		
16～17	弾き歌い・自由曲（採用試験曲用）	こどものうたより 学生個々の演奏力、音楽経験に即した演習		
18～20	弾き歌い・自由曲	こどものうたより 学生個々の演奏力、音楽経験に即した演習		
21～23	弾き歌い・自由曲	こどものうたより 学生個々の演奏力、音楽経験に即した演習		
24～26	ピアノ発表会（実技試験）に向けての対策	こどものうたより 学生個々の演奏力、音楽経験に即した演習		
27～28	ピアノ発表会（実技試験）に向けての対策	ピアノ教則本（バイエル・ブルグミュラー・ソナチネアルバム・ソナタアルバムより1曲） 発表に受けてリハーサル		
29～30	ピアノ発表会（実技試験）	公開ピアノミニコンサート（採用試験想定してのピアノ実技試験）		

回	テ　　マ	内　　　容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材			
	近畿大学九州短期大学指定 「音楽Ⅰ（ピアノ教本）」	実技試験	100.0%	授業までに出された課題曲を練習してくること。近大指定教則本は前期で終了させましょう。後期は実習曲や採用試験曲に真剣に取り組むこと。
	ブルグミュラー			
	ソナチネアルバム			
	ソナタアルバム			
	こどものうた200			

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教育相談		こども未来教育学科／2年	2023／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	渡邊 英実
授 業 の 概 要				
教育場面における相談援助の意義について学び、具体的な手法について知る。				
授業終了時の到達目標				
教育相談を行うにあたって基本となる心理学や支援に必要な「カウンセリングマインド」「アセスメント方法」について学ぶ				
実務経験有無	実務経験内容			
有	福祉従事者としての実務経験17年 精神保健福祉士および社会福祉士の国家資格を持ち、学校現場における教育相談（スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカー）に従事している。課題を抱えるこどもやその保護者および教員との実際の面接場面を教材とし、教育相談の本質を指導する。			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	授業の進め方についての説明および教育相談とはなにかについて学習する	保護者の心を支える子育て支援の必要性和心の支援に必要なことを学ぶ		
2	子育て支援に行かすカウンセリングの理論の概要を知る	各心理療法についての概要について学ぶ		
3	保育者が活用できるカウンセリング技法について学ぶ	保育者の専門性としてのカウンセリングスキルについて学ぶ		
4	養育困難を抱える保護者への支援	保護者が養育困難を抱えてしまう背景について学び、保育者としての支援方法を考える		
5	自閉症について学ぶ	自閉症について学ぶ		
6	A D H D	A D H Dについて		
7	虐待家庭への支援	養育困難に陥りやすい保護者の背景と虐待防止のためのかわりを学ぶ		
8	障害のある子どもを持つ保護者支援	障害のあるこどもを持つ保護者への支援のポイントをつかむ		
9	精神疾患と保護者支援	精神疾患の概要と精神疾患を持つ保護者への支援方法について学ぶ		
10	子育て支援と構成的エンカウンターグループ	構成的エンカウンターグループの活用について学ぶ		
11	心理検査に触れる	グループ箱庭		
12	心理検査に触れる	エゴグラムを実際にやって、自分で評価してみる		
13	心理検査に触れる	SMT（スクール・モラル・テスト）を実際にやり、自己評価をする		
14	事例検討	いじめへの対処や児童虐待への対処について事例をもとにグループで検討し発表する。		

回	テ ー マ	内 容		
15	事例検討	ニーズの高い保護者に対しての支援について事例をもとにグループで検討し発表する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
石川洋子編集『子育て支援カウンセリング』図書文化社2016第7刷		期末試験	100.0%	各コマレポートあり

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
声 楽		こども未来教育学科／2年	2023／前期	演 習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	日野 みどり
授 業 の 概 要				
幼児と歌は、切っても切れない関係にあります。幼児に無理のない素直な声で歌わせるには、保育者自信、示しうるだけの技量を身に付けなければなりません。 この教科では読譜力をつけ、音程、リズム、歌唱による音楽表現の強化をおこないます。				
授業終了時の到達目標				
年次：近大試験 レベル②③合格 基礎リズム・音程の習得				
実務経験有無		実務経験内容		
有		教育現場での音楽指導経験有		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション		講義の概要を説明し授業の目標を明確にする。	
2～3	音読み・リズム取り 歌唱（近大指定レベル②教則本より）		レベル②コーリュウブンゲン・コンコーネ（近大指定教則本番号による） 発声練習	
4～5	音読み・リズム取り 歌唱（近大指定レベル②教則本より）		レベル③コーリュウブンゲン・コンコーネ（近大指定教則本番号による） 発声練習	
6～7	近大指定レベル②③試験対策		レベル②・レベル③（近大指定 声楽試験課題曲） 試験対策	
8	声楽試験		近大声楽実技試験	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
近畿大学九州短期大学指定 「音楽Ⅰ（声楽教本）」 こどものうた200 プリント		声楽実技試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
ボランティア実習(保・幼)		こども未来教育学科／2年	2023／通年	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	24回	3単位(48時間)	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
ボランティアの目的や意義を考える。 今まで学んだことをふまえて、実際にボランティア活動で実践する。 ボランティア実習を通して、自発的・主体的な態度を養うとともに、保育者の社会的な役割についての理解を深める。 興味のある種別のボランティア実習を経験し、				
授業終了時の到達目標				
ボランティアとして求められる役割を理解し、主体的に行動できる。 1日の流れを知るとともに、保育者の仕事内容について理解を深める。 子どもたちの年齢発達を理解を深める。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭 現場における実習生指導の経験を踏まえ、実習に向けての基礎的知識・技術を伝えていきたい。		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1～24	ボランティア実習	ボランティアに求められる役割を理解し主体的に行動する。 ・ 保育補助 ・ 清掃活動 一日の流れを知るとともに、保育者が子どもたちとどのように関わっているか、どのような仕事をしているのかを観察したり実際に関わったりする中で理解を深めていく。 子どもたちや職員と積極的にコミュニケーションを取る。 実習に向けて子どもたちの年齢発達の理解を深める。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）		こども未来教育学科／2年	2023／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	4回	1単位（8時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
この科目では、初めに保育実習の意義・目的・内容といった保育実習の全体的な枠組みを概説する。それに続いて、具体的な内容を通して保育所実習・児童福祉施設実習についての授業を行う。保育所実習・児童福祉施設実習に関するそれぞれの授業において、実習前にすべき事柄・指導計画案の作り方・実習記録の作成および、実習後にすべき事柄などを中心に具体的な事例に基づきながら行っていく。また、保育所・児童福祉施設におけるそれぞれの実習目標、実習課題、実習に向けた学習計画についてレポートをまとめていく。「保育実習Ⅰ」終了後は、実習の反省、次回の実習にむけた課題など実習事後レポートをまとめる。				
授業終了時の到達目標				
・ 保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。 ・ 指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に着ける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として4年の実務経験 現場における実習生指導の経験を踏まえ、実習に向けての基礎的知識・技術を伝えていきたい。		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～2	保育実習		保育実習の全体の流れと諸注意	
3～4	保育所実習の意義・目的・内容について		意義・目的・内容について 各自の実習のねらい	
教科書・教材			評価基準	評価率
新訂しりたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド（同文書院）			授業態度	100.0%
				【準備学習】 授業内で課題提出ができなかった人は、課題を完成させて提出する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）		こども未来教育学科／2年	2023／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	4回	1単位（8時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
この科目では、初めに保育実習の意義・目的・内容といった保育実習の全体的な枠組みを概説する。それに続いて、具体的な内容を通して児童福祉施設実習についての授業を行う。児童福祉施設実習に関するそれぞれの授業において、実習前にすべき事柄・実習記録の作成および、実習後にすべき事柄などを中心に具体的な事例に基づきながら行っていく。また、児童福祉施設におけるそれぞれの実習目標、実習課題、実習に向けた学習計画についてレポートをまとめていく。「保育実習Ⅰ」終了後は、実習の反省、次回の実習にむけた課題など実習事後レポートをまとめる。				
授業終了時の到達目標				
・ 保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。 ・ 実習先施設について 事前学習をする。 ・ 実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に着ける。 ・ 実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として4年の実務経験 現場における実習生指導の経験を踏まえ、実習に向けての基礎的知識・技術を伝えていきたい。		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～2	施設実習		施設実習の全体の流れと諸注意 実習先施設についての事前学習	
3～4	施設実習の意義・目的・内容について		意義・目的・内容について 各自の実習のねらい	
教科書・教材			評価基準	評価率
新訂しりたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド（同文書院）			授業態度	100.0%
				【準備学習】 授業内で課題提出ができなかった人は、課題を完成させて提出する。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
教育実習①		こども未来教育学科／2年	2023／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	40回	2単位（80時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
これまで学習してきた理論を基礎として、教育現場において生きた教育技術を学び、人間性豊かな教師を育成する。 ・ 幼稚園の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・ 子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して教育の理解を深める。 ・ 既習の教科や教育実習②の経験を踏まえ、子どもの教育について総合的に学ぶ。 ・ 教育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 ・ 教諭の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。 ・ 教諭としての自己の課題を明確化する。				
授業終了時の到達目標				
教諭の業務内容、子どもの理解及び教育の理解を深める。教育技術をより習得する。教育の計画、実践、記録の理解を深める。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		現場における実習生指導の経験を踏まえ、実習に向けての基礎的知識・技術を伝えていきたい。		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	参加実習		1, 幼稚園の役割と機能 ・ 幼稚園の生活と一日の流れ ・ 幼稚園教育要領の理解と教育課程の展開	
5～8	参加実習		2, 子ども理解 ・ 子どもの観察とその記録による理解 ・ 子どもの発達過程の理解 ・ 子どもへの援助やかかわり	
9～12	参加実習		3, 教育内容・教育環境 ・ 教育課程の計画に基づく教育内容 ・ 子どもの発達過程に応じた教育内容 ・ 子どもの生活や遊びと教育環境 ・ 子どもの健康と安全	
13～16	参加実習		4, 教育の計画、観察、記録 ・ 教育課程と指導計画の理解と活用 ・ 記録に基づく省察・自己評価	
17～18	参加実習および部分実習		5, 専門職としての教諭の役割と業務倫理 ・ 教諭の業務内容 ・ 職員間の役割分担や連携 ・ 教諭の役割と職業倫理	
19～24	参加実習		実践的幼児教育	
25～28	参加実習		実践的幼児教育	
29～32	参加実習および部分実習		実践的幼児教育	
33～36	参加実習		実践的幼児教育	

回	テ ー マ	内 容		
37～ 40	全日実習	実践的幼児教育		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・「はやわかりBOOK 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（学陽書房） ・「0～5歳児 年齢別 実習完全サポート実習の記録と指導案」（ひかりのくに） ・こどものうた200（チャイルド本社）など		実習・実技評価 課題・レポート	80.0% 20.0%	主体的に積極的な姿勢で実習に取り組む。 【準備学習】幼稚園教育要領を読む。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保育実習Ⅰ（保育所）		こども未来教育学科／2年	2023／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	40回	2単位（80時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
「保育実習Ⅰ」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設で行う実習である。「保育所」で実習を行う。10 日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①保育所における1 日の流れ ②子どもへの理解を深める ③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ④保育所の技術や記録方法について実践的に学ぶ⑤保育士を志すものとして自覚を高める				
授業終了時の到達目標				
・ 保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるが理解することができる。 ・ 実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。 ・ 自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～4	1. 保育所の内容、機能について理解する。		保育所の1 日の流れやプログラムの理解など	
5～8	2. 保育所における子どもの理解。		年齢（月例）ごとの子どもの発達とその特徴など	
9～12	3. 保育所における保育者の職務内容、役割などを理解する。		共働を通して理解する。	
13～16	4. 日誌や指導案の書き方を学ぶ。		発達に適した保育の指導計画を立案する。 一日を振り返り考察し学びを深める。	
17～20	5. 設定保育を経験する。		担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること。	
21～24	参加実習		実践的保育	
25～28	参加実習		実践的保育	
29～32	参加実習		実践的保育	
33～36	参加実習		実践的保育	
37～40	参加実習		実践的保育	
教科書・教材			評価基準	評価率
「はやわかりBOOK 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（学陽書房） 「0～5歳児 年齢別 実習完全サポート実習の記録と指導案」（ひかりのくに） こどものうた200（チャイルド本社）など			実習・実技評価 課題・レポート	80.0% 20.0%
				その他 主体的に積極的な姿勢で実習に取り組む。 【準備学習】 保育所保育指針を読む。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
P C実習Ⅰ		こども未来教育学科／2年	2023／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位（60時間）	必須	甲斐 滋美
授 業 の 概 要				
Wordの基本操作から活用を目指す。				
具体的には、与えられたデータを有効に活用する方法を考え、Wordのどの機能を使って操作をすればいいのかが理解できる力を身につける。				
授業終了時の到達目標				
将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標とし、この授業においてはパソコンの基本操作を習得し更に応用できる力を身につけることを目標とする。 詳細な力としては以下となる。 文書作成ソフトの概念が理解できる 文書に見合う設定を行うことができる データとしてグラフィックや写真の加工ができる まとめとして、Microsoft Office Specialist Wordの検定受験合格 Wordのまとめとして、応用的な操作を踏まえて実務的な書類が作成できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		・ 0Aインストラクターとして15年の経験 ・ 各種試験対策、実務向けオフィス活用の指導		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	Windowsの基本 Wordの基礎		動機づけ Wordの基本的な操作・MOS検定の概要の確認	
2～3	文書の作成と管理		文書を作成する 文書内の移動 文書の書式設定 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する	
4	第1章まとめ		単元テスト	
5～6	文字・段落・セクションの書式設定		文字列や段落を挿入する 文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並べ替える、グループ化する	
7	第2章まとめ		単元テスト	
8～9	表やリストの作成		表を作成する 表を変更する リストを作成する、変更する	
10	第3章まとめ		単元テスト	
11～12	参考資料の作成と管理		参照のための情報や記号を操作する、管理する 標準の参考資料を作成する、管理する	
13	第4章まとめ		単元テスト	

回	テ ー マ	内 容		
14～ 15	グラフィック要素の挿入と書式設定	グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する SmartArtを挿入する、書式設定する		
16	第5章まとめ	単元テスト		
17～ 26	MOS検定模擬試験	MOS検定模擬テスト実施		
27～ 30	MOS検定を活かしての実務応用問題	実務の課題を与えて作成 課題の提出		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
日経PB社 MOS攻略問題集 Excel2016 FOM出版社 よくわかるマスター MOSWord2016対策テキスト		総合評価	100.0%	継続的な内容であるため、なるべく欠席しないこと

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
一般常識		こども未来教育学科／2年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	近藤 美沙子
授 業 の 概 要				
数学、社会を中心に一般常識を基本から学習し、基礎学力の向上を目指す。				
授業終了時の到達目標				
・ 一般常識を習得する。 ・ 採用試験に合格する。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	基礎学力の確認	・ 基礎学力テスト（数学） ・ 社会（県名・県庁所在地名）		
2	数学（四則計算）	・ 県庁所在地テスト ・ 数学（四則計算）		
3	数学（一次方程式）	・ 四則計算テスト ・ 一次方程式（移項、比例式）		
4	日本国憲法	・ 一次方程式テスト ・ 日本国憲法（憲法、三権分立、政治）		
5	数学（連立方程式）	・ 日本国憲法テスト ・ 連立方程式（加減法、代入法）		
6	国際社会	・ 連立方程式テスト ・ 国際社会（国連、略称、国際問題）		
7	数学（方程式の利用）	・ 国際社会テスト ・ 方程式の利用（個数・代金、定価、年齢） ・ 速さ（速さ・時間・距離）		
8	まとめ、試験	一般常識のまとめ 筆記試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリントを配布		期末試験 課題・レポート	60.0% 40.0%	

作成者:近藤 美沙子

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
漢字検定		こども未来教育学科／2年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	近藤 美沙子
授 業 の 概 要				
本科目は、漢字検定の対策を行い、就職後も役立つ漢字の知識の習得をねらいとする。				
授業終了時の到達目標				
漢字検定に合格する				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～15	漢字検定対策 第1回～13回 過去問題		漢字検定対策 第1回～13回 過去問題	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「漢検分野別問題集」公益財団法人 日本漢字能力検定協会 「漢検過去問題集」公益財団法人 日本漢字能力検定協会		総合評価	100.0%	解けなかった問題は辞書で調べ、漢字の意味を理解しながら学習しましょう。

作成者: 桑田 由美

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会人基礎講座Ⅱ		こども未来教育学科／2年	2023／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
本科目は、将来のありたい姿を考えること及び、実習・採用試験に向けて事前準備を行い、社会人になることに自覚を持つことをねらいとする。				
授業終了時の到達目標				
①将来のありたい姿を考える ②実習に向けて積極的に事前準備を行い実践することができる ③自分と向き合い、就職について考える ④履歴書に記入する内容を考え、履歴書を作成する ⑤面接対策に向けて事前準備を行い実践することができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	幼稚園教諭 実務経験で実習指導をしていた経験や、社会人経験を踏まえて指導していきます。			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1	はじめに 将来のありたい姿		①授業内容を知る 目標設定	
2	将来に向かっての準備		目標に向かって	
3～ 7	実習準備		実習準備	
8～ 15	履歴書		履歴書の内容を検討	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		課題・レポート	100.0%	・主体的に授業に参加すること。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会人基礎講座Ⅲ		こども未来教育学科／2年	2023／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	桑田 由美
授 業 の 概 要				
本科目は、将来のありたい姿を考えること及び、実習・採用試験に向けて事前準備を行い、社会人になることに自覚を持つことをねらいとする。				
授業終了時の到達目標				
①将来のありたい姿を考える ②実習に向けて積極的に事前準備を行い実践することができる ③自分と向き合い、就職について考える ④履歴書に記入する内容を考え、履歴書を作成する ⑤面接対策に向けて事前準備を行い実践することができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有	幼稚園教諭			
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ		内 容	
1～7	はじめに 将来のありたい姿 企業研究 一般常識の重要性 実習に向けての意識付け・準備		授業内容を知る 将来のありたい姿 企業研究 一般常識の重要性 実習に向けての意識付け・準備	
8	穴吹学園での学び方について 社会人基礎講座で学ぶことの解説		穴吹学園での学び方について 社会人基礎講座で学ぶことの解説	
9	話の聴き方 偶然がつくる人生		話の聴き方 偶然がつくる人生	
10	モノの見方		モノの見方	
11	就職活動の世界を知る		就職活動の世界を知る	
12	文章の書き方と構成の仕方		文章の書き方と構成の仕方	
13	記憶からたどる		記憶からたどる	
14	自分を知る工夫		自分を知る工夫	
15	履歴書の書き方と伝え方		履歴書の書き方と伝え方	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		課題・レポート	100.0%	